

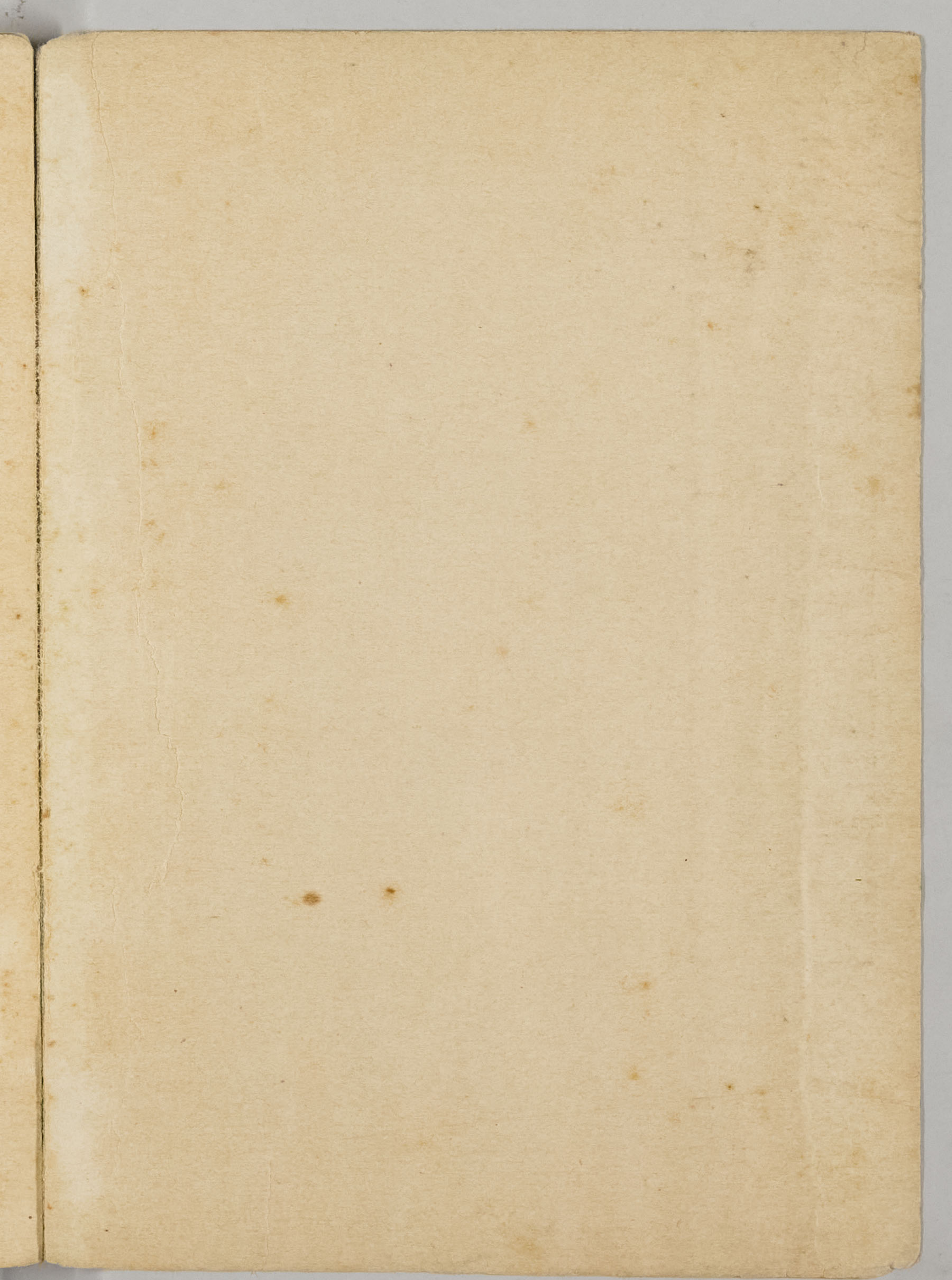
明治四十
二年印刷
送假名法
漢字用例

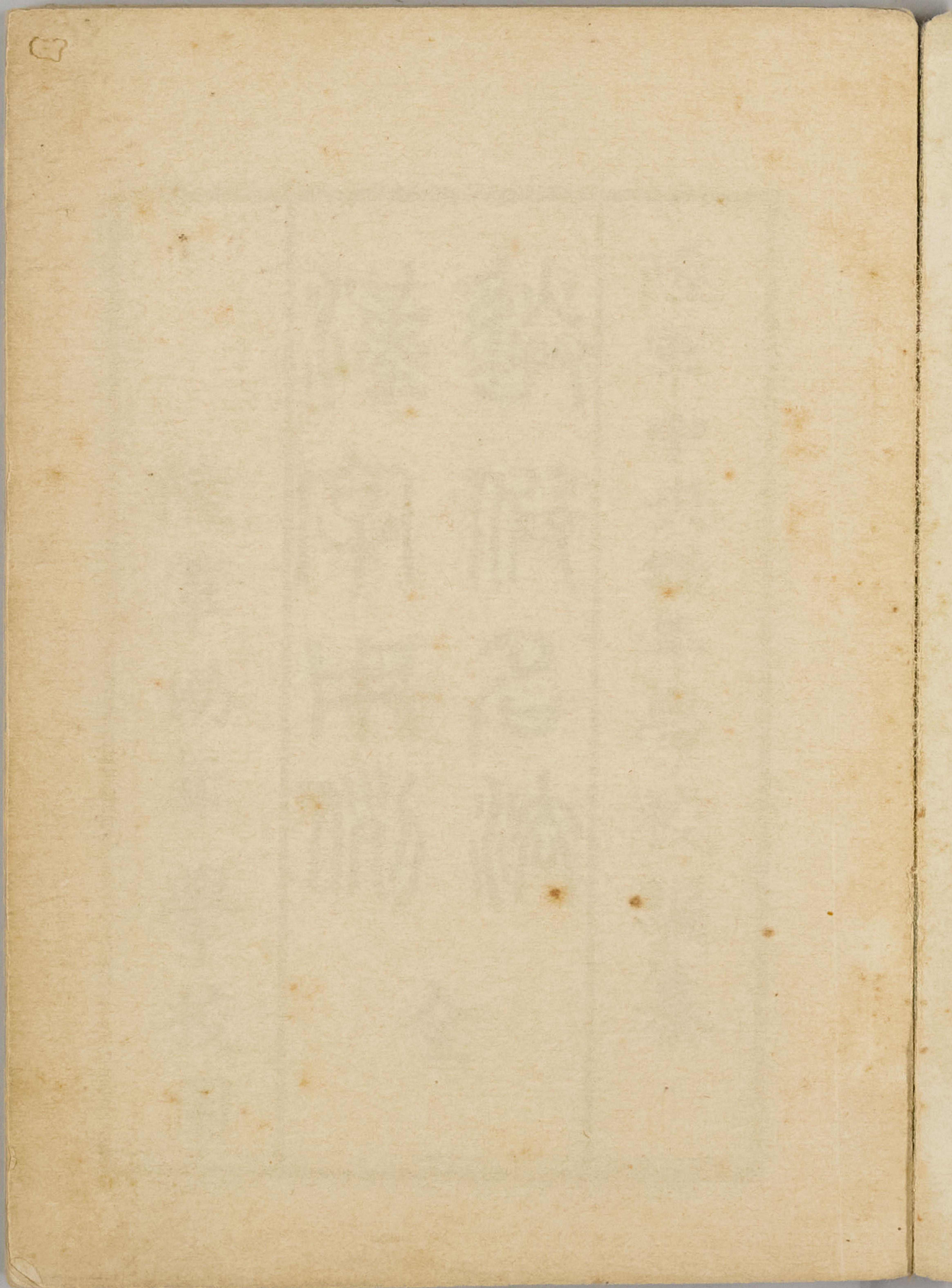
陸軍幼年學校用

全

W5

0







陸軍中央幼年學校編纂

漢 燧 假 名 濟
序 用 例

全

陸軍幼年學校用

送假名法

明治三十四年六月

陸軍中央幼年學校國漢文科編纂

漢字用例

明治三十四年六月

陸軍教授 佐藤 鐵彌 編纂
故陸軍教授 川田 乾三 纂

送假名法

新編竹葉

送假名法

○動詞及ビ助辭

一、動詞ニハ語尾ノ變化スル所ヨリ送假名ヲ附ス。

行^ユか 行^ユき 行^ユく 行^ユけ

恨^{ウラ}み 恨^{ウラ}む 恨^{ウラ}むる 恨^{ウラ}むれ

得^エ 得^ウ 得^ウる 得^ウれ

有^アら 有^アり 有^アる 有^アれ

〔變例〕 表^{アラ}はす 遣^{ツカ}はす 妻^{メテ}はす 販^{ニホ}はす 非^{アラ}ず

二、自動動詞ヨリ轉ゼル他動動詞、他動動詞ヨリ轉ゼ

ル自動動詞、他ノ動詞ヨリ轉ゼル敬稱動詞及ビ延言ノ動詞ニハ本動詞ノ語尾ノ變化スル所ヨリ送假名ヲ附ス。

甲 ウヱ 動く ウヱ 動かす

ホロ 亡ぶ ホロ 亡ぼす

乙 ウツ 産む ウツ 産まる

ウツ 埋む ウツ 埋まる

丙 タ 立つ タ 立たす

シ 知る シ 知らす

丁 カダ 語る カダ 語らふ

マテ 申す

マテ 申さく

丁 語る 語らふ

申す マテ 申さく マテ

〔變例〕「日はく」ハ送假名ノ「は」ヲ省クモ可ナリ。

三、名詞又ハ形容詞ヨリ轉ゼル動詞ニハ其ノ轉ゼル所ヨリ送假名ヲ附ス。

春めく ハル 名づく ナ 黄ばむ キ 遠ざかる トホ

四、熟語動詞ニハ各動詞ニ送假名ヲ附ス。

遊び戯る アン タム 洗ひ清む アラ キヨ 勝ち誇る カ ホコ 残し置く コ オ

〔變例〕 左ノ如キ慣用ノ熟語動詞ニハ唯下ノ詞ノミ送假名ヲ附スルモ可ナリ。

受取る ウケト 申上ぐ マテシア 届出づ トケイ 差遣はす サツカ

送假名法 動詞及ビ助辭

五、助辭ハ總テ假名ヲ用フ。

べし なり けり かな かも かや

〔變例〕「如し」ハ漢字ヲ用フルモ妨ナシ。

○形容詞

一、形容詞ニハ左ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

甲 善ヨき

惡ワロき

全マツタき

尊タラトき

乙 樂タノしき

惡アしき

正タマしき

可チカ笑しき

丙 安ヤスけき

靜シヅけき

遙ハルけき

長ノド閑けき

丁 靜シヅかなる

遙ハルかなる

幽カスかなる

嚴オゴソかなる

戊 平タビらかなる

安ヤスらかなる

明アキらかなる

清キヨらかなる

己 愚オダやかなる

建スコやかなる

農コマやかなる

爽サワやかなる

戊 平らかなる 安らかなる 明らかなる 清らかなる

己 穩オダやかなる 健スコやかなる 濃コマやかなる 爽サワやかなる

二、動詞ヨリ轉ゼル形容詞ニハ動詞ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

願ネガはしき 頼タノもしき 痛イタましき 歎ナガかはしき

三、熟語形容詞ニハ左ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

甲 薄ウス暗グき 輕カ々ロしき 手テ輕ガき 心ココ易ロき

乙 見ミ善ヨき 知シり難ガき 考カンへ易ガき 聞キき苦クしき

○名詞

一、名詞ニハ送假名ヲ附セズ。

上カミ 下シモ 時トキ 心ココロ 學校ガクカウ 大和魂ヤマトダマシヒ

一、動詞ヨリ轉ゼル名詞ニモ送假名ヲ附セズ。

恥ハヂ 話ハナシ 教チシヘ 答コタヘ 妨サマタゲ 流ナガレ 祭マツリ 戰タカヒ

〔變例〕 他ノ詞ト紛レ易キトキハ動詞ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

印シルし(印) 營イトナみ(營) 悔クい 悔クみ 定サダめ 定サダまり
始ハジめ 始ハジまり 押オシ入イり 押オシ入イれ

三、形容詞ヨリ轉ゼル名詞ニハ形容詞ノ例ニ依リテ

送假名ヲ附ス。

高タカさ 廣ヒロさ 重オモみ 厚アツみ 樂タンしさ 悲カナしさ 靜シヅけさ
長ナド閑ドけさ

○代名詞

一、左ノ如キ代名詞ニハ送假名ヲ附セズ。

余ヨ 汝ナムヂワダクシ 私アナタ 貴方ナニソレガシ 何 某

二、左ノ代名詞ニハ「れ」ノ送假名ヲ附ス。但シ附セザルモ妨ナシ。

我ワ 己オン 彼カ 是コ 此コ 之コ 其ソ 誰タ 孰イ

三、左ノ代名詞ニハ「が」又ハ「の」ノ送假名ヲ附ス。但シ附セザルモ妨ナシ。

我ワ が 彼カ の 是コ の 此コ の 其ソ の (「が」又ハ「の」ガ主格ニ立ツ場合ニハ省クコトヲ得ズ)

○副詞及ビ接續詞

一、副詞及ビ接續詞ニハ語尾ノ一字ヲ送ル。

先づマ 若しモ 夫れソ 且つカ 復たマ 尙ほナ 猶ほナ 將たハ 爲めダ

斯くカ 嘗てカ 將にマ 終にツ 未だイ 寧ろム 縦ひタ 蓋しケ 但しダ

昔しム 當にマ 争でイ 必ずカ 古へイ 自らミ 殆どホ 頗るス 忽ちダ

或はアル 尤もモ 雖もイ 甚だハ 則ちス 苟もイ 豫めア 如何にイ

〔變例第一〕 扱サ 今イ 又マ 亦マ 皆ミ 豈ア 稍ヤ 唯ダ 只ダ

〔變例第二〕 「但し」ハ送假名ヲ附セザルモ妨ナシ。

〔變例第三〕 若くはモ 況んやイ 而してシ 直ちにダ 故らにコ

徒らにイ 須らくス 動もすればヤ

徒らに 須らく 動もすれば

一、動詞、形容詞、名詞ヨリ轉ゼル副詞及ビ接續詞ニ

ハ各、其ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

甲 始めて 至りて 然らば 例へば 及び

〔變例〕 左ノ如ク送假名ヲ省減スルモ可ナリ。

總て 兼て 於て 就て 依て 以て 隨て 及

乙 能く 宜しく 靜かに 明らかに 濃やかに

丙 誠に 竝に 確實に 素より

三、漢字ヨリ成レル熟字ノ副詞及ビ接續詞ニハ送假

名ヲ附セズ。

大凡 就中 例令 加之

送假名法 副詞及ビ接續詞

四、疊語ノ副詞及ビ接續詞ハ一字ノモノハ「々」、一二字

以上ノモノハ「々々」ヲ用フ。

世々ヨ、 尙々ナホク、 時々トキトキ、 往々ワウウ、 行くユク、 返すカヘ、

「變例」 各々オノオノ、 愈々イヨイヨ、 益々マス、 屢々シバシバ、 旁々カタカタ、 會々タマタマ、 抑々ソモソモ、 熟々ツラツラ

備考 以上ノ法則ハ普通文ニ適用セララル、モノナリ。書牘文ニア

リテハ慣例ニ依リ送假名ヲ省減スルコトアルベシ。

送假名法 終